令和４年度　小・中学校教育課程研究協議会に係る各部会の改善の重点

部会名　**中学校　特別の教科　道徳**

改善の重点
①何を考えさせたいのか教師の意図を明確にした中心発問（課題）を設定すること。 　また、中心発問に対して、２～３つの補助発問を準備すること。 ②学習した内容に関わり、今の自分を振り返ったり、これからの課題や目標等を見付けたりする「振り返り」の場面を設定すること。 ③道徳科の特質を踏まえ、積極的かつ効果的に１人１台端末を活用すること。

１　設定理由

道徳科における主体的な学びの視点として「問題意識」「自分との関わり」「振り返り」等があり、対話的な学びの視点として「多面的・多角的に考える」「選択や判断」等がある。これらの視点による学習活動が深い学びにつながり、自己の生き方についての考えを深めることになる。

①　発問

教師による発問は、生徒が自分との関わりで道徳的価値を理解したり、自己を見つめたり、物事を多面的・多角的に考えたりするための思考や話合いを深める上で重要である。

②　振り返り

１時間の学習の中で、自分自身の体験やそれに伴う感じ方や考え方などを想起できるようにするなど、特に自己の生き方についての考えを深めることを強く意識して指導することが重要である。

③　１人１台端末の効果的な活用

学習指導においてICTの特性・強みを生かし、１人１台端末を活用した授業づくりを行うことが求められている。生徒の発達段階や道徳科の特質を踏まえ、ICT活用により指導の効果が高まる場面を見極めたり、指導者が意図をもってICT活用場面を位置付けたりすることが大切である。また、年間や学期という一定の期間を経て評価するためにICTを活用することが、生徒が自己を深く見つめることにつながる。

２　研究を進めるに当たって

（１）実践に当たっては、以下の点に留意すること。

①　発問

・発問を構成する場合は、授業のねらいに深く関わる中心発問（課題）をまず考え、次にそれを生かすための前後の発問（基本発問）を用意するなどして、全体を一体的に捉えるようにする。
・中心発問と基本発問だけでは、道徳科の授業は上手く展開できない。教師の臨機応変な対応としての補助発問（問い返し）が必要。中心発問に対する補助発問を２～３つ程度準備しておく。

②　振り返り（1単位時間の中で確保）

・単に授業の感想を書かせるだけでは、自分自身を振り返ることが難しい児童もいる。例えば、「自分にとって大切なのはどんな考え方か」等、視点を示すことも考えられる。
・じっくりと自分と向き合う時間が必要である。意図のない出し合いは避けるようにする。

③　１人１台端末の効果的な活用

・指導に当たっては、道徳科の目標に示されている学習活動に着目し、より効果的に行われるようにするための手段として ICT を活用することが肝要。授業のあらゆる場面での活用が考えられるが、より効果が高いと考えられる場面で活用することが重要である。

（２）参考とすべき資料

・「道徳科　評価と授業構想の在り方　改訂版」（平成３１年３月）
（大分県教育委員会ＨＰ　https://www.pref.oita.jp/site/gakkokyoiku/doutokukaiteibann.html）
・各教科等の学習過程を踏まえた ICT 活用ハンドブック　中学校版　（11）特別の教科　道徳
（大分県教育委員会ＨＰ　https://www.pref.oita.jp/site/kyoiku/ict-handbook.html）